



那珂川病院 足病の診療と啓発に力を注いでいます

13組 竹内 一馬

本誌に初めて寄稿させていただきます。近年、食生活の欧米化による肥満、糖尿病の増加、少子高齢化の進行、薬や医療技術の進歩による平均寿命の延長などの様々な要因から、今後の日本社会において足に何らかの問題を抱えた高齢者は急増していくものと考えられます。高齢者の足の健康を守り、足病変を早期に発見し、早期に治療できるようにしていくことは、超高齢化社会において重要なことのひとつであり、豊かで健康な長生きに繋がるものと考えています。高齢者の足のトラブルとは言っても、整形外科的な問題から生じる下肢廃用による浮腫、外反母趾、扁平足、動脈硬化による動脈血流障害、静脈性疾患、心疾患、腎疾患、低栄養による浮腫、ロコモティブ症候群、転倒による下肢の骨折、外傷など多岐に渡っており、先生方もご存じの通り、まだまだ解決していかなければならない多くの問題があります。

1) 足病(フットケア)診療とケア

筆者は現在三つの病院にて足病診療を行っています。通常の診療において、実際の臨床現場では受診したすべての患者さんに対して足の診察やケアを毎回行うことは困難です。足の診察をするためには、靴と靴下を脱がせ、足を診察し、さらに処置が必要な場合は処置を加え、終了後はまた靴下と靴を履かせるといったことが必要です。足を熱心に診ようとすればするほど、多大な労力が必要となります。こんなことが敬遠されがちな理由で

すが、まずは「誰かが足を見る(診る)」ことが重要です。限られた場所と限られた診察時間ではありますが、多くの足のトラブルを解決できればと願います。

2) 高齢者のフットウェア

筆者はフットケア外来に加えて、義肢装具士とともに週2回、靴・インソール外来を行っています。足診療における義肢装具士の役割は大きく、知識と技術のある義肢装具士・地域の靴店と連携して患者さんに適切かつ履いていただける靴やインソールを選択し作製すること、費用的な負担も考慮することが重要です。足トラブルのハイリスク群(糖尿病、閉塞性動脈硬化症、透析、高齢など)においては、特に靴は間違った履き方をすると凶器にもなるため、時間の許す限り、靴紐の締め方・靴の履き方指導を行っています。

運動レベルの高い独歩可能な高齢者であっても歩けない人が履くのと同様な介護靴を履いているのを良く見かけます。介護靴は介護する者が履かせ易いようにデザインされていることが多く、靴の機能が損なわれている靴が多いです。そういった靴は安定性・固定性も悪く、靴底も柔らか過ぎて、下肢に多くの負担がかかってしまいます。患者さんに靴についてアドバイスされる際には、踵部がしっかりとっていて、紐やマジックテープで足の甲をしっかり固定できるタイプの靴を勧

めていただければと思います。

3) 院外活動・「NPO 法人足もと健康サポートねっと」

前述のような指導・教育は、医療・介護現場だけで行うのではなく、福祉施設などの公共施設や民間の靴店でも指導可能なことです。よって、高齢者の足を守るためには、医療・介護福祉施設のみならず、民間の靴・インソール製造販売関係などとの情報共有や他業種連携を図っていくことが急務と考えます。医師、病院だけではすべての足のトラブルは解決できていないのが現状です(もちろん足の領域に限ったことではありませんが)。病院を受診した時点で既に助ける術もない状態に陥っていることがあります。我々はそういった方々を一人でも多く救いたいと思っています。ではどうすれば良いでしょうか?患者さんの足が取り返しのつかない状態になる前に早く気付いていただく、こんな病気がご自身の身にも起こることがあるのだ、ということを知っていただきたい。異変を早期に発見し、早期のうちに治療を行うことが一番の近道であると思っています。

しかし、これらのことは医療機関だけでは解決できないことだと感じ、5年ほど前から民間の義肢装具士、靴店などを一緒に「足の健康を啓発」するために「NPO 法人足もと健康サポートねっと」を立ち上げ、診療の合間に活動を続けています。紙面の制約もあり、

詳しくご紹介はできませんが、公式HP (<http://ashimotokenko.com/>) や Facebook ページなどを是非ご覧下さい。

足のトラブルの問題は、医療だけでは解決できないことが多くあります。介護だけでも、フットケアサロンだけでも解決できません。

解決するためには、足に関係している他職種の地域ネットワークが必須だと考えています。我々NPOは九州の医療関係者と地域の靴屋さん、フットケアサロンなどとの連携を図ることで、足に悩みをもった方々の問題解決をサポートすることを理念として設立しました。これらの繋がりが整備されれば、足にトラブルをもったお客さんや患者さんを最適な場所へ導くことができ、早期発見も可能となります。また、足に関する違った職種のエキスパートが経験や知識を共有することは各々のモチベーションの維持に役立ち、さらなる足診療や販売の質の向上に繋がるのが期待できると考えています。当NPOは、来年度の事業としてウォーキング大会の主催や、第5回下肢救済足病学会九州沖縄地方会学術集会の翌日に開催する市民公開講座 (<http://jlspm.ace-cms.jp/>) を共催する予定にしています。また、産学協同事業なども積極的に申請していく予定です。

今後とも医師会の諸先輩方のご指導やご協力を頂けましたら幸いです。

社会医療法人喜悦会 那珂川病院

病医院所在地	〒811-1345 福岡市南区向新町2丁目17-17	診療時間等	すべて予約診療です
電話番号	092-565-3531	月	9:00~12:00 13:00~17:00(予約制)(義肢装具士 同伴)
FAX番号	092-566-6460	水	13:00~17:00 (予約制)
診療科目	血管外科・フットケア・フットウェア・循環器科	木	9:00~17:00 (フットケア看護外来)
		金	第1・3週 9:30~17:00 福岡赤十字病院
		金	第2・4・5週 9:30~17:00 長尾病院